

どこまで彼らは速くなるのか!?

# ジャパンマイコンカーラリー (MCR) 2003 全国大会



2003年1月12日(日)北海道札幌国際情報高等学校でMCR2003全国大会が開催された。参加台数は、「高校の部」が119台、「一般の部」が99台であった。



今大会のコース全長は62.13m。クランク(直角カーブ)が連続する、まれに見る難易度の高いコースとなった

「ロボマガ」記者・城井田 勝仁

## 高校の部



優勝

瀬戸義弘  
カーネーム: よっし~Jr  
学校名: 香川県立三豊工業高等学校



準優勝

折谷直人  
カーネーム: Cat'C  
学校名: 富山県立大沢野工業高等学校

## 一般の部



優勝

丸木雅大  
カーネーム: 青嵐



準優勝

瀬尾文隆  
カーネーム: WINNINGRUN  
所属: 香川県立三豊工業高等学校

前大会よりもテクニカルなコースなはずなのに、今大会ではみんなさらに速くなっていた!

MCR2003全国大会のコースは、まれに見る難コースだった。クランク(直角カーブ)が連続し、スピードの乗りやすい坂道の前後にはコーナーが作られ、ヘアピンどころか鍵穴のような急カーブが含まれる。ほとんどスピードを出せることなく、誰もが前大会を下回るタイムを予想した。

ところが、ふたを開けてみると、驚くことに前大会よりも平均して走行タイムが1秒ないし2秒速くなっていた。高速化を少しでも抑えようと、あえてテクニカルなコースを用意した主催者側の思惑は見事にはずれたのだ。

主催者側が毎年のように進む高速化を抑えようと考えたのには理由がある。際限のない高速化は、それだけマイコンカーへの負担を増やし、勢いあまっのコースアウトは「マイコンカーの破損」という事態を招き始めているのだ。特に練習走行では、スピードの限界を見極めようと、どうしてもぎりぎりの高速走行に挑んでしまう。その結果としてマイコンカーはコースから飛び出すことが多くなり、参加者はせっかく製作したマイコンカーの修理に追われるようになってきているのだ。

モータスポーツの最高峰である「F1(エフワン)」でも、選手への安全対策として、最高時速が300km以上に達するスピードを低く抑えようと、さまざま対策をとってきた。高速化が進むMCRでも同じなのだ。

参加者のMCRへの取り組みは本当にすごい。毎年のように新たな技術や素材が登場し、翌年にはさらにそれを超えるものが現れる。いったい彼らはどこまで速くなるのだろうか。



シャッター速度を上げてもなかなか捕らえきれないくらい、現在のマイコンカーはコーナーでも高速走行するのだ